



国土交通省近畿地方整備局  
Kinki Regional Development Bureau  
Ministry of Land Infrastructure, Transport and Tourism

近畿地方整備局	配布日時	平成24年 9月18日 14時00分
資料配布		

件名	<b>「第5回 大阪湾生き物一斉調査 結果発表会」を開催</b> ～大阪湾で504種の生物確認、うちレッドデータ種58種を確認！～
----	--

概要	<p>・第5回 大阪湾生き物一斉調査について各団体の代表者が調査の様子や結果についてポスターセッションや発表を行う他、有識者らによる講評も予定しています。</p> <p><b>【結果発表会の概要】</b> 日時：平成24年9月22日（土・祝）12時30分～17時30分 場所：大阪市立自然史博物館 講堂（大阪市東住吉区長居公園1-23）</p> <p><b>【今回のトピックス】</b> ・大阪湾の21箇所で20団体1,328人が504種を確認（環境省、水産庁、WWFおよび大阪府、兵庫県で指定されているレッドデータ種として58種を確認） ・今回初めて確認された種としてトビハゼやシオヤガイなど8種のレッドデータ種を確認</p> <p>※なお、「大阪湾環境データベース」に過去の調査結果などを記載していますのでご覧ください。<a href="http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/">http://kouwan.pa.kkr.mlit.go.jp/kankyo-db/</a></p> <p>※結果発表会の取材を希望される方は、近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課（河崎）までご連絡下さい。</p>
----	---

取扱い	
-----	--

配布場所	近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、神戸海運記者クラブ、神戸民放記者クラブ、みなと記者クラブ
------	---

問い合わせ先	近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所 調査課 課長 河崎和文 TEL 078-331-0058(直通)
--------	---

# 第5回 大阪湾生き物一斉調査 結果発表会

平成24年6月2日(土)(一部の団体では、5~6月の他の日に実施)に、大阪湾の21箇所で20団体1,328人が参加して、「第5回大阪湾生き物一斉調査」を行いました。この度、調査に関する情報交換等を行う結果発表会を開催することとなりました。発表会では、各団体の代表者が調査の様子や結果について、ポスターセッションや口頭発表を行います。

**日時：平成24年9月22日(土・祝) 12時30分~17時30分**

**場所：大阪市立自然史博物館 講堂**

(大阪市東住吉区长居公園 1-23)

アクセス：地下鉄御堂筋線「長居」駅 南改札口3号出口から東へ約800m

JR 阪和線「長居」駅 東出口から東へ約1km

## 【プログラム(予定)】

12:30 **ポスターセッション**(各団体)

13:30 **調査趣旨等説明**

13:50 **プレゼンテーション**

(大阪湾海岸生物研究会 山西良平先生)

14:45 **口頭発表**(各団体)

17:00 **大阪湾全体の結果の講評**

(大阪湾海岸生物研究会 大谷道夫先生、

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 鍋島靖信先生)



## ※ 参加費無料

ただし、博物館の入館料(大人：300円、大学生・高校生：200円、中学生以下・市内在住の65歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方：無料)が必要です。

各団体からすでに申し込みをされている方は申し込み不要です。また、参加希望者多数の場合は先着順とさせていただきます。

## 【調査参加団体】

生き生き地球館 子どもエコクラブ、大阪自然環境保全協会 淀川観察会、大阪コミュニケーションアート専門学校、大阪南港野鳥園、男里川干潟を守る会、貝塚市立自然遊学館、NPO 法人海浜の自然環境を守る会、海遊館、きしわだ自然資料館、国立公園成ヶ島を美しくする会、里海くらぶ連絡協議会、NPO 法人シニア自然大学校(森と海の自然科)、須磨海岸生物調査研究所、須磨海浜水族園ボランティア、NPO 法人釣り文化協会、西宮自然保護協会、西淀自然文化協会、浜寺公園自然の会、豊かな森川海を育てる会

【主催者】 大阪湾環境再生連絡会 大阪湾生き物一斉調査プログラム実行委員会

(事務局：国土交通省近畿地方整備局神戸港湾空港技術調査事務所 調査課 海の再生環境担当)

【お問い合わせ・申込先】 いであ株式会社 環境調査・技術部(担当：村松、藤井)

TEL 06-4703-2863 FAX 06-4703-2856

E-mail fkiyoka@ideacon.co.jp



【会場案内】



## 第5回 大阪湾生き物一斉調査結果発表会 申込書

いであ株式会社 環境調査・技術部 村松、藤井 宛

- ・ FAXで申し込みをされる方は、申込書に必要事項をご記入の上、FAX 番号（06-4703-2856）まで、お申し込み下さい。
- ・ メールで申し込みをされる方は、①氏名、②年齢、③電話番号、④所属団体名、⑤懇親会に参加するかどうか をご記入の上、fkiyoka@ideacon.co.jp まで、お申し込み下さい。

先着順ですので、お早めにお申し込み下さい

氏名	年齢	TEL	
		FAX	
所属団体名		E-mail	

氏名	年齢	TEL	
		FAX	
所属団体名		E-mail	

氏名	年齢	TEL	
		FAX	
所属団体名		E-mail	

※申し込みの際に収集した個人情報は、当結果発表会以外の目的で使用することはありません。

## ■第5回大阪湾生き物一斉調査 調査概要

### 1. 調査実績

#### ① 調査の趣旨

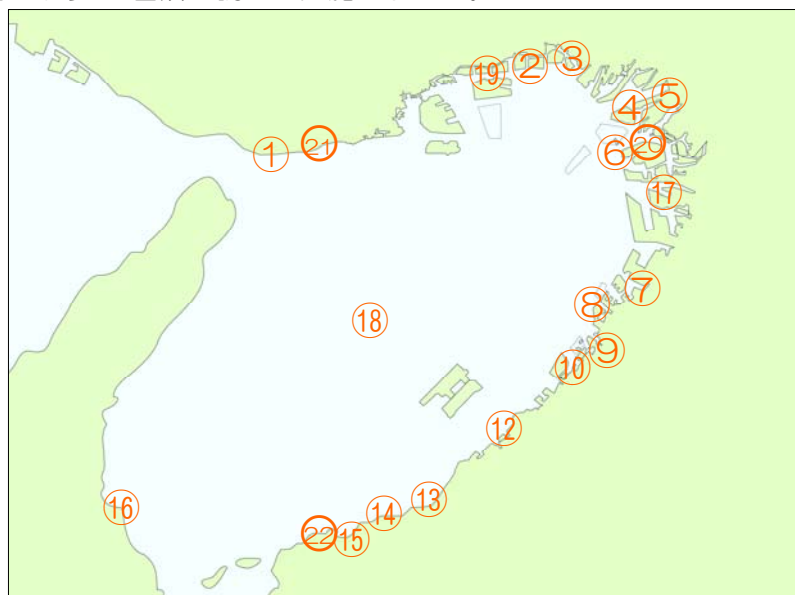
- 『大阪湾生き物一斉調査』は、大学・市民団体・国および地方公共団体等で構成する「大阪湾環境再生連絡会」が大阪湾の沿岸で活動する団体の協力を得ながら、皆さんと一緒に各地の生き物を一斉に調査する取り組みです。
- この調査の結果は大阪湾の各地の水環境を把握する基礎資料にします。

#### ② 調査日

平成24年6月2日（土） ※一部の団体では5～6月の別の日に実施

#### ③ 調査地点

下の図に示す21箇所で調査を実施しました。



#### 【兵庫県内】

調査地点	担当団体
1 アシュール舞子	須磨海浜水族園ボランティア
21 須磨海岸	須磨海岸生物調査研究所[5/26]
19 住吉川河口	豊かな森川海を育てる会[6/3]
2 香櫛園浜（御前浜）	西宮自然保護協会
3 甲子園浜海浜公園	NPO法人 海浜の自然環境を守る会 生き生き地球館こどもエコクラブ
16 洲本市大浜	国立公園成ヶ島を美しくする会

#### 【大阪府内】

調査地点	担当団体
4 矢倉海岸	西淀自然文化協会
5 十三干潟（淀川）	(社)大阪自然環境保全協会 淀川自然観察会[6/3]
6 大阪南港野鳥園	大阪南港野鳥園
17 堺2区埋立地	(社)大阪自然環境保全協会、 NPO法人 釣り文化協会[6/3]

#### 【大阪府内】

調査地点	担当団体
7 高師浜	浜寺公園自然の会
8 大津川河口	きしわだ自然資料館
9 阪南二区埋立地	きしわだ自然資料館[6/3]
10 近木川河口	NPO法人 シニア自然大学校 森と海の自然科[6/7] 貝塚市立自然遊学館[5/20]
12 櫻井川河口	男里川干潟を守る会
13 男里川河口干潟	
14 せんなん里海公園	里海くらぶ連絡協議会
15 東川（落合川）河口	(社)大阪自然環境保全協会 [6/7]
22 豊国崎	
18 大阪湾内[対列調査][5/25]	海遊館、大阪コミュニケーション アート専門学校
20 天保山[対列・護岸生物調査]	

#### ④ 調査参加人数

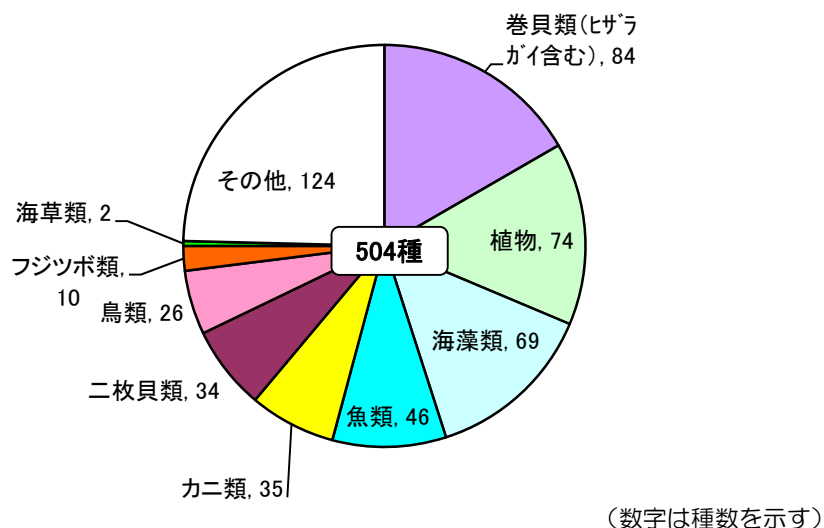
1,328人（20団体）

## 2. 調査結果

種名まで同定された種類は 504 種でした。

海藻類及び海草類が 71 種、動物は貝類が 118 種（巻貝類 84 種、二枚貝類 34 種）、カニ類が 35 種、魚類が 46 種等でした。また、鳥類は 26 種、陸上植物は 74 種でした。

出現種のうち特筆すべき種として、兵庫県、大阪府、水産庁、WWF の各 RDB と環境省のレッドリスト（2007 年）に掲載されている種に該当するものを次頁の表に示しました。全体の貴重種としては 58 種類が該当しました。このうち、海藻類はスジアオノリ、ヤナギモク等の 3 種、植物はコウボウムギ、ハマゴウ、ハマボウフウの 3 種、海草類はコアマモの 1 種、貝類はウミニナ、クリイロカワザンショウガイ、フトヘナタリ、ミヤコドリガイ、シオヤガイ、マテガイ等の 22 種、カニ類はアカテガニ、ハクセンシオマネキ等の 11 種、魚類はイダテンギンボ等の 5 種、その他はエビ類のテッポウエビ、アナジャコ類のハルマンスナモグリ等の 8 種等でした。



注) 今後の精査により、種数は変更になる可能性があります。

図 2012 年度出現種の分類群別種数

【参考：これまでの調査状況】

項目	第 1 回 (2008 年)	第 2 回 (2009 年)	第 3 回 (2010 年)	第 4 回 (2011 年)	第 5 回 (2012 年)
調査参加人数 (人)	467	666	792	931	1,328
地点数 (箇所)	15	15	17	18	21
確認種数 (種)	410	533	474	383	504
貴重種出現種 (種)	40	49	48	49	58

- 注) 1. 今後の精査により、第 5 回の種数は変更になる可能性があります。  
 2. 大阪湾生き物一斉調査での確認状況を示しており、大阪湾における生き物の種類や貴重種の種類の増減を示しているものではありません。  
 3. 貴重種は基本的に水生生物を対象に選定したものです。

表 貴重種の出現状況一覧（2012年度）

分類群		種名	兵庫県 RDB 1)	大阪府 RDB 2)	環境省 2007年度版RL 3)	水産庁RDB 1998年 4)	WWF 干潟RDB 5)
海藻類	緑藻類	1 スジアオノリ				減少傾向	
	褐藻類	2 ヤナギモク	(絶滅危惧Ⅱ類)				
	紅藻類	3 ホソアヤギス	(絶滅危惧Ⅱ類)		準絶滅危惧		
海藻類		4 コアマモ	(絶滅危惧Ⅰ類)				希少
植物		5 コウボウムギ		絶滅危惧Ⅱ類			
		6 ハマゴウ		絶滅危惧Ⅱ類			
		7 ハマボウフウ		絶滅危惧Ⅰ類			
貝類	巻貝類	8 アカニシ				減少	危険
		9 アラムシロガイ	(準絶滅危惧)				
		10 イシマキガイ				減少	
		11 ウミナメクジ					危険
		12 ウミニナ	(絶滅危惧Ⅰ類)		準絶滅危惧	減少傾向	危険
		13 カキウラクチキレモドキ					危険
		14 カワザンショウガイ	(準絶滅危惧)				
		15 クリイロカワザンショウ	(準絶滅危惧)				
		16 ゴマツボ					危険
		17 ヒナユキスズメ	(絶滅危惧Ⅰ類)		準絶滅危惧		
	二枚貝類	18 ヒモイカリナマコツマミガイ					危険
		19 フトヘナタリ	(準絶滅危惧)		準絶滅危惧		危険
		20 ホソウミニナ	(準絶滅危惧)				
		21 マルウスラタマキビガイ	要注目種				危険
		22 ミヤコドリガイ	(絶滅危惧Ⅰ類)				危険
		23 ウネナシトマヤガイ	(準絶滅危惧)		準絶滅危惧		危険
		24 カガミガイ	要注目種				
		25 クチバガイ	(絶滅危惧Ⅱ類)		準絶滅危惧		
		26 ショヤガイ					絶滅寸前
		27 ソトオリガイ	(準絶滅危惧)				危険
		28 マテガイ	(準絶滅危惧)				
		29 ヤマトシジミ	(絶滅危惧Ⅱ類)		準絶滅危惧		
多毛類		30 コケゴカイ	(準絶滅危惧)				
		31 スナイソゴカイ	(準絶滅危惧)				
		32 タマシキゴカイ	(絶滅危惧Ⅱ類)				
		33 チロリ	(準絶滅危惧)				
カニ類		34 アカテガニ	(準絶滅危惧)				
		35 アシハラガニ	(準絶滅危惧)				
		36 クロベンケイガニ	(準絶滅危惧)				
		37 コメツキガニ	(準絶滅危惧)				
		38 タイワンヒライソモドキ					希少
		39 ハクセンシオマネキ	(絶滅危惧Ⅰ類)		絶滅危惧Ⅱ類		危険
		40 ハマガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)				
		41 マメコブシガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)				
		42 モクズガニ				減少傾向	
		43 ヤマトオサガニ	(絶滅危惧Ⅱ類)				
		44 ユビアカベンケイガニ	(準絶滅危惧)				
魚類		45 イダテンギンボ	(絶滅危惧Ⅰ類)				
		46 ウナギ			情報不足		
		47 ウロハゼ		情報不足			
		48 チチブ	要調査種	情報不足			
		49 トビハゼ	(絶滅危惧Ⅰ類)	絶滅危惧Ⅰ類	準絶滅危惧	減少	
爬虫類		50 イシガメ		要注目		減少傾向	
	(その他)	頭足類	51 ヒスイカ			減少	
		エビ類	52 テッポウエビ	(準絶滅危惧)			
		53 ユビナガスジエビ	(準絶滅危惧)				
	アナジャコ類	54 ニホンスナモグリ	(準絶滅危惧)				
		55 ハルマンスナモグリ	(絶滅危惧Ⅱ類)				
		56 ヨコヤアナジャコ	(準絶滅危惧)				
	ウニ類	57 ハスノハカシバン	(絶滅危惧Ⅱ類)				
	ナマコ類	58 ヒモイカリナマコ	要調査種				危険

(注)

- 改訂・兵庫の貴重な自然 兵庫県版レッドデータブック2003、植物はレッドリスト2010 ( )は兵庫県評価を「改訂・日本版レッドデータブック」の相当カテゴリーに置換したもの。
- 大阪府における保護上重要な野生生物 -大阪府レッドデータブック- 平成12年3月
- 環境省 2007年度版レッドリスト
- 水産庁.1998.日本の希少な野生水生生物に関するデータブック.社団法人日本水産資源保護協会.437pp.東京.
- WWF Japan Science Reprint vol.3,1996. 評価「普通」は省略した。
- 貴重種選定にあたり、基本的に水生動植物を対象とし、陸上植物は本調査のリスト掲載種に限定した。
- 各評価の区分と定義概念は下記による。特に区別の記載のない区分は環境省に準ずる。  
 絶滅危惧Ⅰ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。  
 絶滅危惧Ⅱ類：現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。  
 準絶滅危惧：現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。  
 情報不足：評価するだけの情報が不足している種。  
 要注目種(兵庫)：最近減少の著しい種、優れた自然環境の指標となる種などの貴重種に準ずる種。  
 要調査種(兵庫)：改訂・日本版レッドデータブックの情報不足に相当。  
 要注目種(大阪)：「絶滅」「絶滅危惧」「準絶滅危惧」「情報不足」の区分以外で大阪府において保護上重要なもの。  
 減少傾向(水産庁)：長期的にみて減少しつつあるもの。  
 減少(水産庁)：明らかに減少しているもの。  
 希少(水産庁)：存続基盤が脆弱な種・亜種。  
 危急(水産庁)：絶滅の危険が増大している種・亜種(環境省に準ずる)。  
 危険(WWF)：絶滅に向けて進行しているとみなされる種。今すぐ絶滅という危機に瀕するということはないが、現状では確実に絶滅の方向へ向かっていると判断されるもの。  
 希少(WWF)：特に絶滅を危惧されることはないが、もともと個体数が非常に少ない種。
- 表中網掛けは、今年度初確認の貴重種を示す。
- 貴重種記載資料の該当府県の場所没有出现していない場合もある。  
 普通/希少(WWF)：地域により状況が異なる。

■平成24年度初確認の貴重種(表中網掛け)

ヤナギモク	海藻類		
ミヤコドリガイ	貝類(巻貝類)	トビハゼ	魚類
シオヤガイ	貝類(二枚貝類)	イシガメ	爬虫類
マテガイ	貝類(二枚貝類)	ハルマンスナモグリ	甲殻類
チロリ	多毛類		